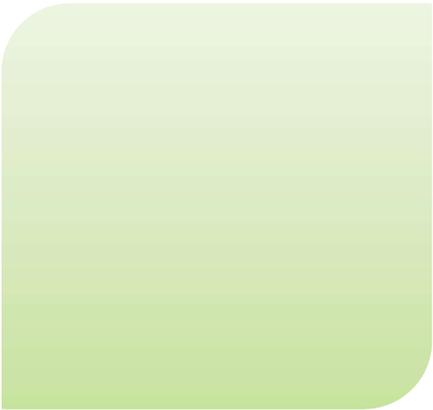




2021年度
事業報告書

2021年 4月 1日から

2022年 3月31日まで



社会福祉法人 福寿会

社会福祉法人福寿会の基本理念

1. その人の基本的人権を尊重する
2. その人の自立を支援する
3. その人の心を癒す

令和3年度 社会福祉法人福寿会の事業報告

社会福祉法人福寿会の現況に関する事項

- (1) 事業概要 P 1
- (2) 職員の状況 P 2
- (3) 理事会及び評議員会 P 3
- (4) 部門別報告 P 4～
- (5) 施設外研修一覧 P 3 5
- (6) 地域公益活動報告 P 3 8



社会福祉法人福寿会の現状に関する事項

(1) 事業の経過と概要

令和3年度は、前年度に引き続きコロナウイルスとの戦いの年度となりました。当法人内でも、ご利用者や職員のコロナウイルス感染が確認されました。しかしながら、法人内での感染拡大は無く、感染症対策に一定の成果はあったのではと考えております。そして、長引くコロナ禍の中で、感染症対策を講じたうえで日常を取り戻す準備期間の年度にもなりました。

具体的な取り組みについてです。介護部門では、介護ソフトの導入により、介護記録から請求までを一気通貫して行える体制となり事務作業の削減を進めました。これにより、感染症対策により奪われた入居者様との時間を取り戻すべく努めております。保育部門では、法人内施設間での人材交流を開始いたしました。これにより、人材育成や施設間連携強化に繋げて参ります。事務部門では、給与計算業務、社保業務のアウトソースを実施しました。これにより、有事の際にも給与支給を確実に行える体制が出来、且つ業務負荷の削減を実現しました。

次に地域貢献についてです。令和3年度の公募により、奈良市から認知症対応型共同生活介護事業を受託いたしました。これに伴い、福寿会としては初の地域密着型サービスを開始いたします。運営推進会議等を通して、地域への発信を行って参ります。令和5年4月の事業開始を予定しています。

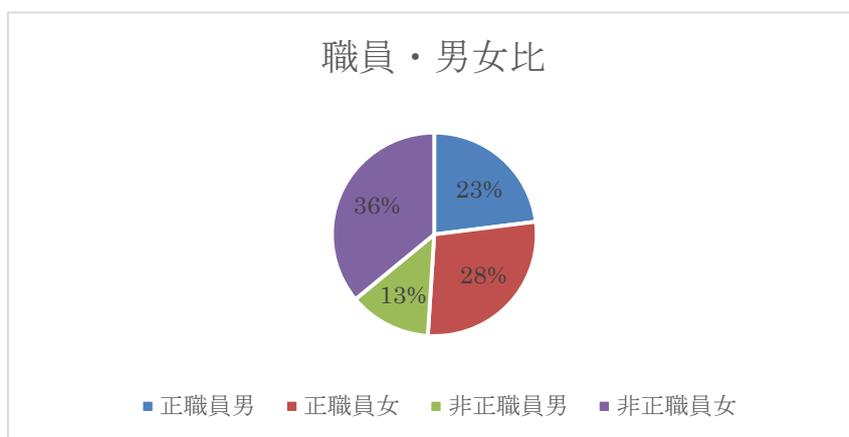
最後に人材についてです。法人として資格取得支援制度を制定致しました。これにより、職員の資格取得に対して経済的支援が出来るようになりました。当該制度の利用を推進して、職員が働き甲斐を感じ、成長意欲が持てる職場環境造りに努めて参ります。

2) 職員の状況

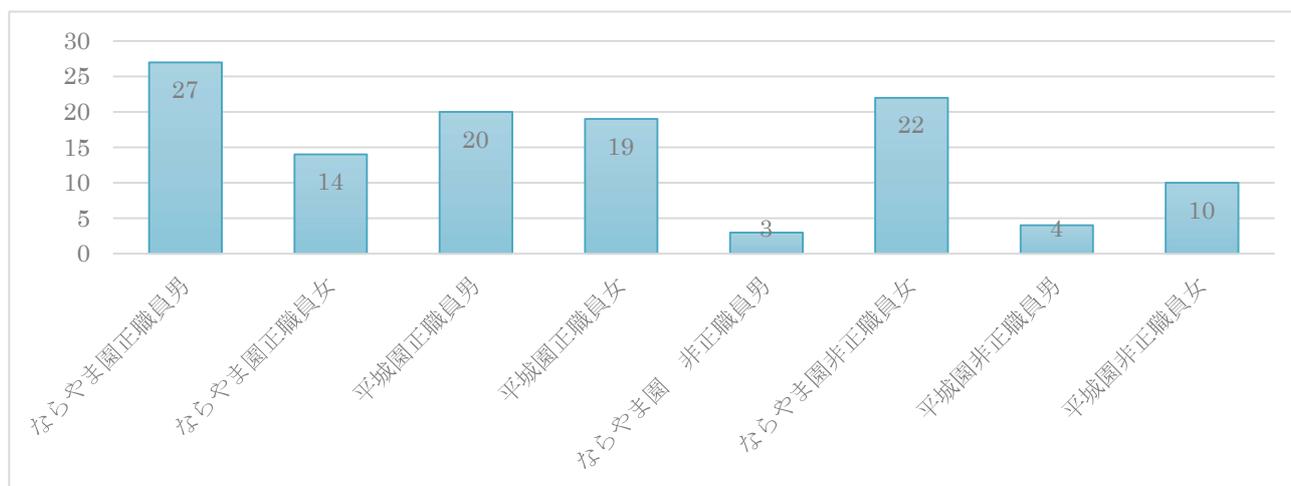
	ならやま園	平城園	ヴィラ秋篠	登美ヶ丘マミーズ 保育園	計
正職員	59名	67名	2名	18名	146名
非正職員	60名	59名	9名	16名	144名
計	119名	126名	11名	34名	290名

(内 産休・育休：5名)

① 職員・男女比 (全職員)



② 特養職員配置 (介護職員+看護職員)



(単位：人)

(3) 理事会及び評議員会

理事会

決議日	主な審議事項
令和3年5月28日	提案事項 ・ 整形外科クリニック及び通所リハビリ施設併設の住宅型有料老人ホームの設計施工業者の選定方法について指名型プロポーザル方式を採用する件
令和3年8月2日	提案事項 ・ 令和2年度事業報告並びに計算関係書類及び財産目録の承認の件 ・ 次期役員候補者を評議員会に推薦する件 ・ 整形外科クリニック及び通所リハビリ施設併設の住宅型有料老人ホームの設計施工業者の決定について ・ 整形外科クリニック及び通所リハビリ施設併設の住宅型有料老人ホームの建設予定地の賃貸借契約について ・ 資格取得支援制度規定の制定について 他
令和3年8月18日	提案事項 ・ 理事長の選定の件
令和4年2月22日	提案事項 ・ 経理規程の一部改正について ・ クレジットカード規定の制定の件 ・ 給与規程の一部改正の件 ・ 非正職員給与規程の一部改正について ・ 職員向け貸付制度の制定の件 ・ 育児・介護休業規程を新たに制定する件 ・ グループホーム建設業者を指名競争入札にて選定する件 ・ 特養ならやま園の老朽化に伴う大規模修繕工事の施工業者を指名競争入札にて選定する件 他
令和4年3月29日	提案事項 ・ 給与規程の一部改正について ・ 令和3年度補正予算（案）を承認する件 ・ 令和4年度事業計画（案）並びに収支予算（案）の承認の件 ・ 電子カルテ・X線撮影機器の導入業者を指名競争入札にて選定する件

評議員会

決議日	主な審議事項
令和3年8月9日	提案事項 ・ 令和2年度計算書類・財産目録の承認の件 ・ 時期役員選任の件
令和4年3月31日	提案事項 ・ 令和3年度補正予算の承認の件 ・ 令和4年度事業計画並びに収支予算の承認の件

評議員選任解任委員会

決議日	審議事項
令和3年8月8日	提案事項 ・ 次期評議員選任の件

(4) 部門別事業報告

特別養護老人ホームならやま園 (定員 84 名)

○介護部門

令和 3 年度も新型コロナウイルス感染症から、利用者の生活を守ることが使命となった。職員や、職員の家族が感染したり濃厚接触者となることがあり職員の自宅待機が余儀なくされた時もあった。発熱や風邪症状が見られた際は早めに検査を行い、またデイサービスや他フロアからの応援もあり、利用者から感染者が出ることもなく利用者の生活を守ることができた。ワクチンの 3 回目接種も無事に終了したが、今後も感染者が出ないように対応を行っていききたい。

令和 3 年度も介護職員の退職者がほとんどいなかった。引き続き介護職員の離職を無くし、未来の介護を担う人材を育成していききたい。

コロナ禍で縮小した行事やイベントを、感染症の対応に努めながら徐々に開催していききたい。

(1) 新型コロナウイルス感染症について、利用者の命と安全を守るについて

職員や職員の家族などが陽性になったり濃厚接触者になることは有ったが、利用者感染者が出ることは無かった。今年度も施設内に絶対、持ち込まないことを第 1 に感染症予防対策を行っていききたい。

(2) 介護人材の育成のために働きやすい環境を整えるについて

今年度も離職する職員はほとんどいなかった。コロナ禍の中で自粛を余儀なくされストレスもたまる毎日であったが意欲をもって利用者の生活を支えてくれた。

(3) 介護の勉強だけでなく、社会人として、人間として成長できるように魅力的な研修を行うについて

コロナ禍の中で研修は WEB や紙面を通してのものとなった。マナー研修やメンタルヘルスの研修はできなかったが、令和 4 年度には実施できるようにしたい。

(4) 地域の防災拠点としての役割を果たせるように、大規模災害の対策を講じるについて

災害発生時、新型コロナウイルス感染症の発生時の BCP (事業継続計画) を法人で策定

を行ったが、定期的な見直しが必要と考えている。コロナ禍の中でできなかった地域の方との連携や福祉避難所についての体制の構築を行っていききたい。

① 在園年数 (R4. 3. 31 現在)

	1 年未満	1 年～ 3 年未	3 年～ 5 年未	5 年～ 7 年未	7 年～ 10 年未	10 年以上	計
男 性	6 名	5 名	2 名	0 名	0 名	0 名	13 名
女 性	9 名	32 名	14 名	6 名	5 名	1 名	67 名
合 計	15 名	37 名	16 名	6 名	5 名	1 名	80 名

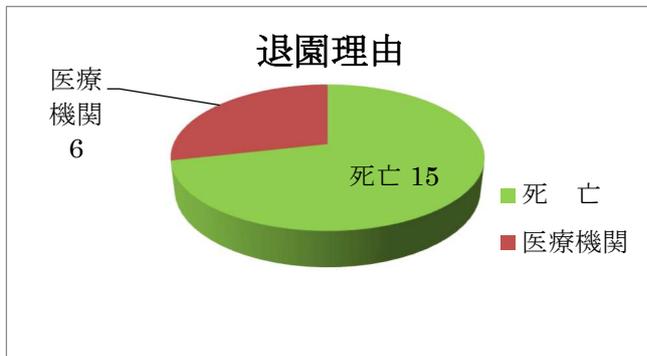
② 利用者年齢構成 (R4. 3. 31 現在)

区分	60～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	合計
男性	0名	1名	3名	1名	3名	4名	1名	0名	13名
女性	0名	1名	4名	11名	14名	23名	9名	5名	67名
合計	0名	2名	7名	12名	17名	27名	10名	5名	80名

最低・最高年齢 (R4. 3. 31 現在)

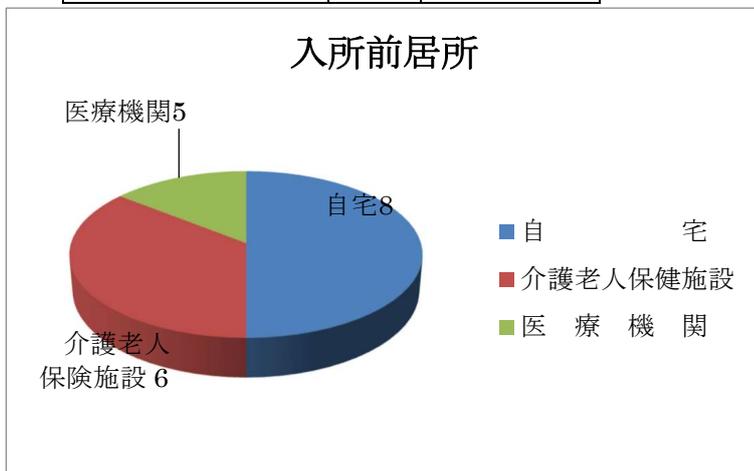
	最低年齢	最高年齢	平均
男性	71歳	95歳	84.8歳
女性	74歳	105歳	89.7歳

医療機関 7



入退園の状況 (年間)

	性別	年間合計
新規利用者数	男性	5人
	女性	14人
退去者数	男性	4人
	女性	17人



③ 利用者介護度別延べ人数 (従来型)

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	介護度平均
R3 年度	0	0	4,677	8,903	5,316	18,896	4.28
R2 年度	0	0	5,251	8,816	4,413	18,480	4.00

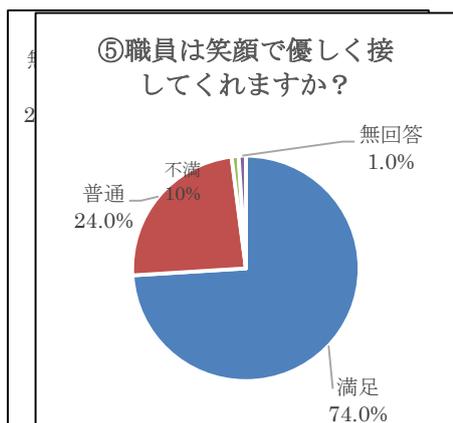
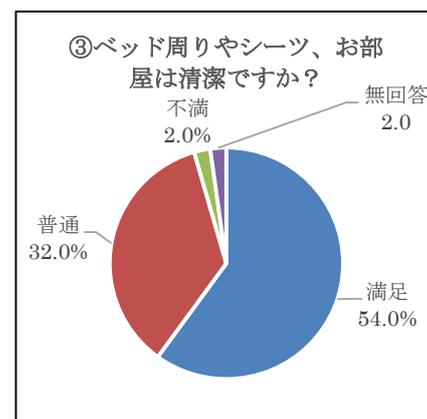
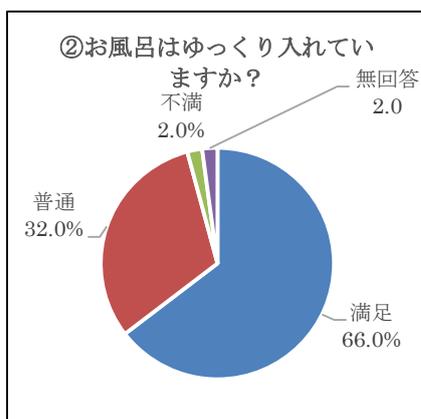
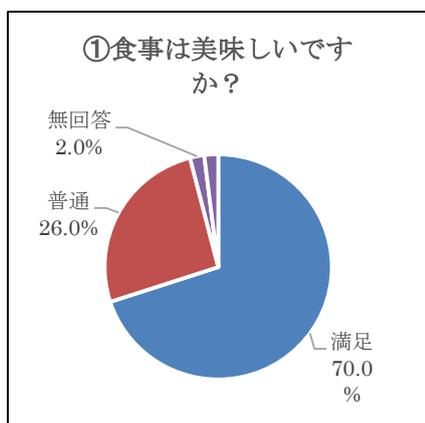
(ユニット型)

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	介護度平均
R3 年度	0	0	4,803	4,047	1,775	10,625	3.23
R2 年度	0	0	3,857	4,356	1,761	9,974	3.89

◇ 特養 満足度調査 (令和 3 年 3 月実施)

ならやま園では利用者の生活向上、職員の意識向上のために毎年、利用者から満足度調査を行っている。今年度の結果を報告する。

※下記 5 項目について、1.満足 2.普通 3.不満 4.無回答 の 4 段階評価にて回答してもらった。



医療・看護部門

(1) 新型コロナウイルス感染症に対する感染症対策について

施設内でクラスター発生を防止するため、職員やその家族の健康状態を報告し、体調不良時には早めの休職を促すこと、また休職することへの後ろめたさが無くて済むような職

場の雰囲気作り、勤務変更へ協力を呼びかけていった。第6波時には職員・家族がコロナ陽性者となったが、濃厚接触者の特定や抗原検査の実施、現場においてはゾーニングとPPEを実施することにより施設内で新たな陽性者はなく、クラスター発生を防止できた。フロアを越えて職員が介護援助することで、濃厚接触者が特定しづらくなるため原則フロア間の行き来を無くした。

しかし、濃厚接触者・接触者の特定にははっきりとした基準がなく、保健所からの指示を待つ間、対策・行動が統一されない面もあった。

今後、第7波に備え陽性者・濃厚接触者・接触者の取り扱いに統一した基準を用いて対応していく。また、新型コロナワクチン接種では、入園者・職員の希望者に3回目まで接種を行った。

(2) 本人・家族の望む最期を迎えられるような看取り介護の提供について

園で最期を迎えた方は8名だった。居室変更や他の利用者と接触せず居室まで案内できるルートを確認することにより、看取り期では面会を可能にし、最期に立ち会うことができた。

(3) 健全な職場環境の提供について

ストレスチェックの受検者は106名と例年と大きく変化はなかった。医師との面談希望

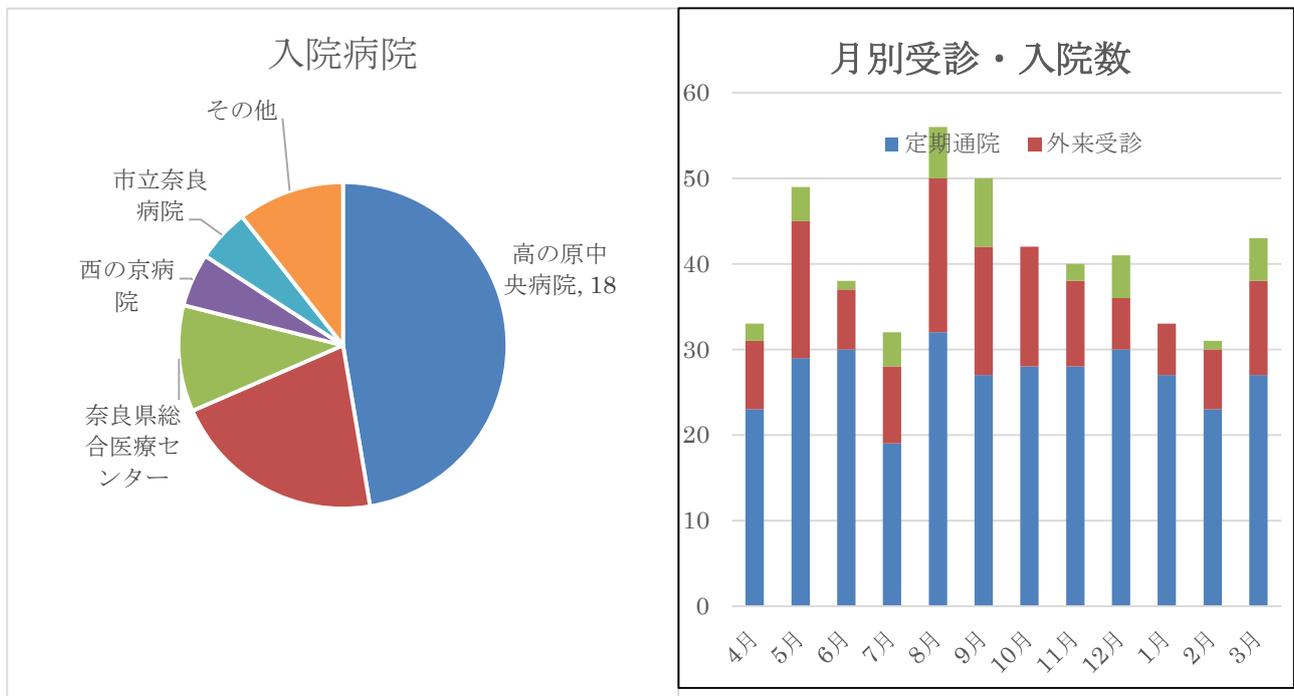
者

は1名であった。定期健康診断については休職中を除く全員が受けることができた。受診

結

果が健康増進に反映できていない面(結果報告のみ終わっている)もあり今後の課題であ

る。



○個別機能訓練部門

今年度もコロナ感染症対策等により、定期的な理学療法士の指導を受ける事が出来なかった。

しかし、新たに言語聴覚士による口腔ケア・嚥下の評価等の指導を受ける事が出来、多方面での利用者個々にあった介助・訓練を見直す機会が出来た。

多職種と連携を図り、利用者個々の状態を把握ながらポジショニング等を画像に残し説明し、統一を図ろうとしたが完全には統一出来なかった。

機能訓練状況（介護職員担当の生活の中での活動を含む 令和4年3月31日現在 単位：人）

	従来型	ユニット和	ユニット悠
集団体操	27	8	10
歩行訓練	22	5	5
立位訓練	27	5	7
筋力増強訓練	25	6	9
体重移動訓練	6	1	3
離床	25	5	5
車椅子自操	5	2	3
関節可動域訓練	21	4	5
ポジショニング	22	6	7
滑車	4	設置なし	設置なし

○栄養管理部門

（1）栄養ケア・マネジメントの実施について

今年度も個々の利用者の状況に対応した個別対応の食事提供ができるよう取り組んできた。特養利用者全員に栄養ケア・マネジメントを実施できた。食事療法が必要な方には療養食の提供も行っている。今後も利用者が健康を維持して頂けるよう多職種協働で取り組んで行きたい。

（2）家庭的で季節感のある食事や行事食の提供について

誕生食、好み食、選択食、行事食等の実施により、日常生活に変化や楽しみのある食事の提供を行うことができた。好評であり今後も継続して行きたい。今年度も新型コロナウイルス感染症の流行により、おやつレクリエーションを中止し感染症対策を行った。来年度は状況を見ながら感染症対策を講じて再開して行きたい。

（3）食事内容の向上について

喫食状況を見せて頂いたり、利用者や職員と会話をする中で嗜好や嚥下状態等を把握し、献立や調理、盛付等、食事内容に反映できるよう取り組んできた。

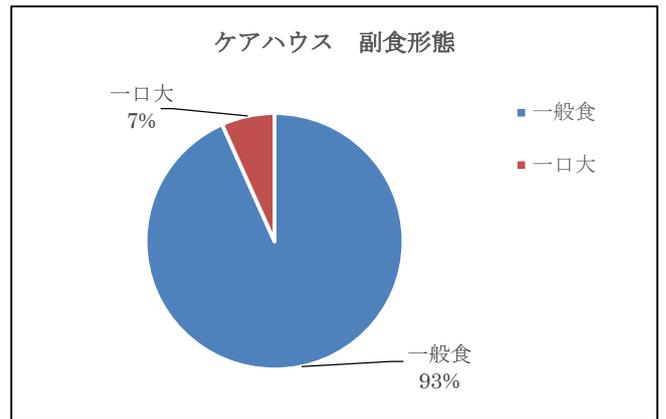
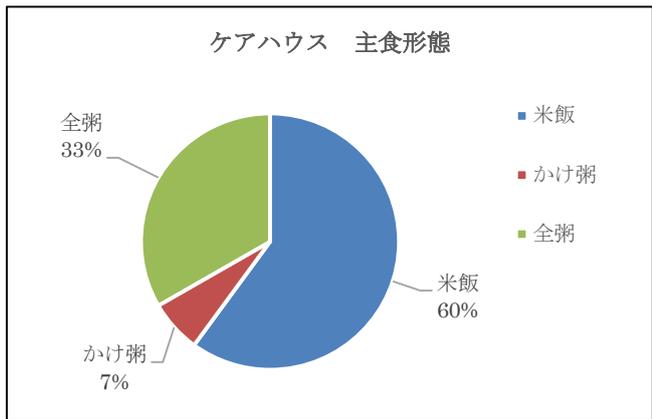
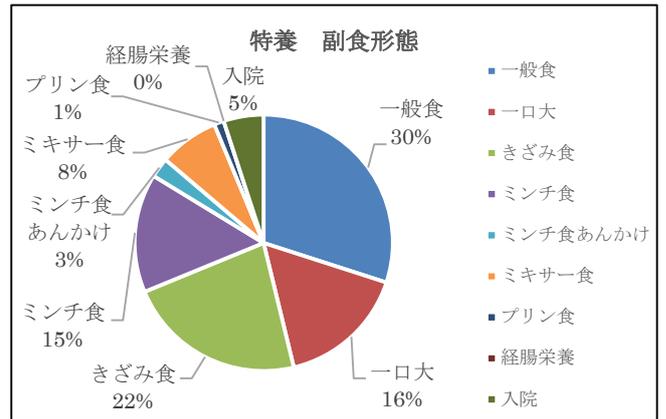
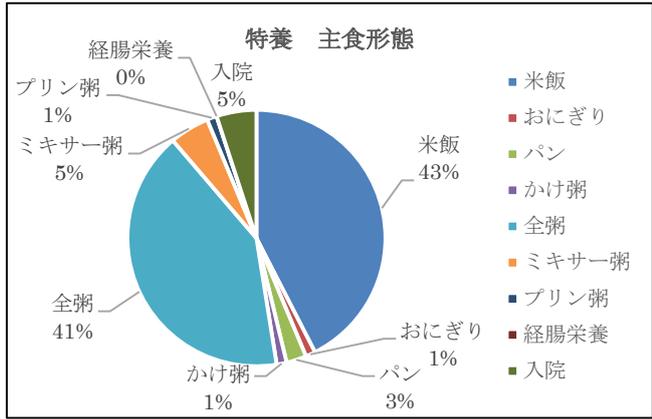
（4）食中毒予防や感染症対策など、安全な食事の提供について

大量調理衛生管理マニュアルに基づいた衛生管理に努めてきた。食中毒予防の施設内研修を、コロナ禍であり書面研修で行った。感染症対策と同時に食中毒予防についても施設全体で取り組みを行うことができた。

（5）非常災害時の備蓄について

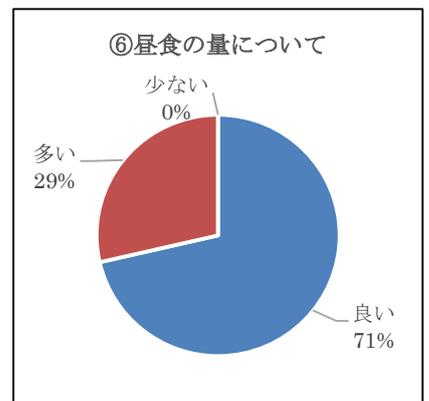
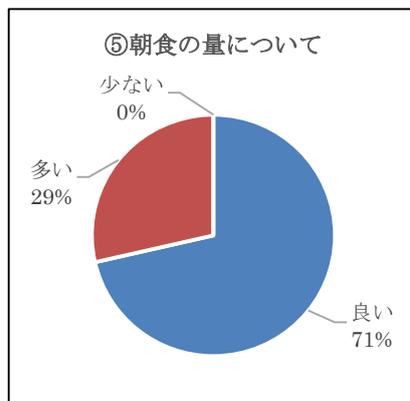
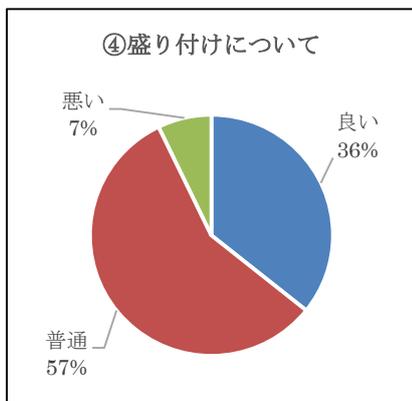
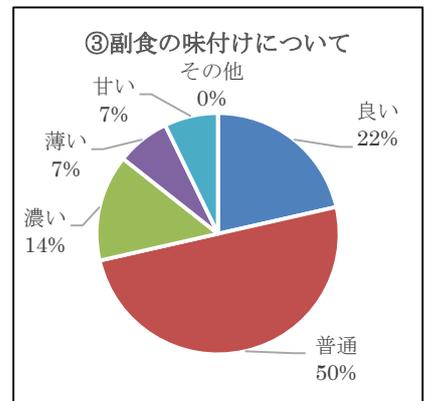
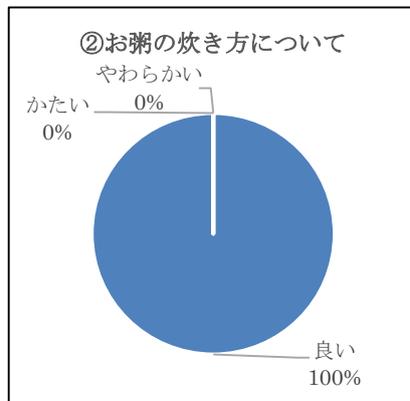
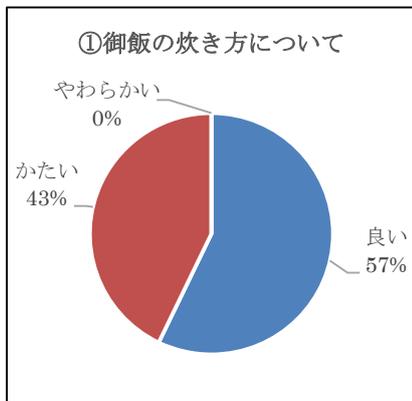
非常食を使い捨て容器と共に利用者3日分を備蓄している。賞味期限を把握し、献立に入れる事で無駄なく入れ替えを行うことができた。又、非常食使用時は利用者や職員に意識喚起を行った。

食事形態（令和4年3月31日夕食現在）



◇ケアハウス満足度調査（嗜好調査）結果

令和4年1月実施 回答率100%

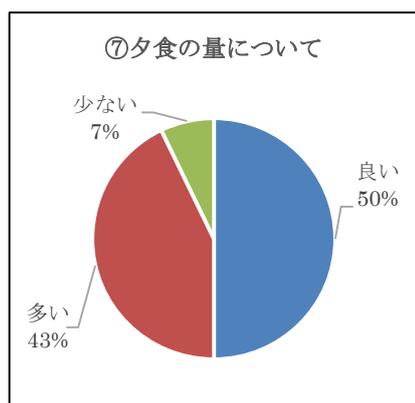


⑧今後希望される料理

- ・赤飯
- ・天ぷら
- ・茶碗蒸し
- ・唐揚げ
- ・中華
- ・緑黄色野菜のお浸し

⑨食事についての満足度を 100 点満点で評価

平均 81.8 点



⑩その他、食事に関する御意見・御希望（抜粋）

- ・青菜などもう少し塩味がついて欲しい。
- ・大根の煮物の時、少し甘さを控えめにして欲しい。
- ・魚のムニエルの上に野菜をかけると生臭いので、魚と上にかけるものを別にして欲しい。
- ・お肉は鶏胸肉を希望。
- ・歯茎が弱くなり、入れ歯ですので軟らかい料理を希望。
- ・デザートはなるべく飲物を希望。
- ・すっぱい果物は苦手。

・別に希望はございません。厨房の皆様には感謝しています。ありがとうございます。

○ボランティア部門

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、ボランティア活動を中止せざるを得なかった。今年度も感染の状況によるが、落ち着けばボランティアの受け入れを再開していきたい。

ならやま園ショートステイサービス（定員 16 名）

令和 3 年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行に伴いショートステイの受け入れを一時、中断せざるを得ない状況が多くみられた。

令和 4 年度も感染状況を鑑みつつ、安全にサービスをご利用いただけるように努めていきたい。

(1) 職員の介護の資質、サービスの質の向上を目指す。

利用者の重度高齢化に伴い、介護職員に求められるスキル（専門性）が多様化、複雑化していく中、特養併設であることの専門性を生かし、安心して利用していただける環境、サービスを提供していくことを心がけている。

現場職員の人材（定着率）も安定しており、介護福祉士など有資格者の割合も安定している。引き続き利用者個々のニーズに柔軟に対応できるスキルアップを目指していきたい。

(2) 利用者、家族、関係機関との連携を密に図り、個々のニーズを把握することで利用者の満足度の向上に努める。

利用者一人一人との関りやコミュニケーションを大切にしながら、日常生活の中で楽しみや刺激を感じていただけるような余暇を常に心がけている。令和 3 年度も引き続き、新型

コロナウイルス感染症が拡大していく中、施設内においても積極的なボランティア活動や行事、散歩や喫茶なども開催できず、利用者には不便、迷惑をかけている。

そんな中でも「密を避けつつ」明るく前向きに楽しめる余暇の提供を今後も考えていきたい。

日々の小さな関りや対応を1つ1つ確実に重ねていくことで、利用者、家族との関係構築、サービスの質の向上に努めていきたい。

- (3) 地域の各事業所と連携し、新規利用者の受け入れを行うと同時に、既存利用者の安定した利用を目指す。

空きベッドを積極的に利用し、各部署と連携を取りながら緊急の受け入れにも対応してきた。独居の方や高齢者夫婦、家族の介護負担軽減など、在宅での生活が困難となるケースも多く、各事業所や家族とも連携をとり、出来る限り受け入れできる体制を整えた。

引き続き、外部居宅介護支援事業所などへの積極的な営業活動を進めながら、新規利用者の獲得にも努めていきたい。

- (4) コロナウイルス感染症の拡大防止に向けて、利用者の命を守ることを最優先に、各事業所（デイサービス、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所や医務室）との情報共有、連携を強化するとともに、個室の確保やショートステイ受け入れ継続の判断など柔軟に対応していく。

家族や各事業所、関係各機関とこまめに連携をとり、利用者が安心して利用できる生活空間の提供に努めてきた。引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大も懸念されるため、施設内外、各事業所や行政、機関と連携、情報共有に努めると同時に、フロア内の密の回避など感染症の予防に努めていきたい。

	延利用日数	稼働率	延利用数	身障	介護度別利用日数（日）						
					要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
R3年度	3699日	63.3%	318人	0日	0	22	15	672	1307	1222	461
R2年度	4917日	84.2%	484人	0日	0	2	226	1268	1505	950	967
増減	-1218日	- 20.9%	-166人	±0	±0	+20	-211	-596	-198	+272	-506

ならやま園デイサービスセンター（定員 39名）

- (1) 利用者の生活に適した援助を統一して提供する

在宅での様子や福祉用具の検討など家族やケアマネジャーと連携をとり、利用者一人一人に適した援助を提供している。

- (2) 余暇の選択の幅を広げ利用者満足へ繋げる

5年前から実施しており様々な形で利用者へ提供している。昨年度から制作物を持ち帰り園での様子が分かるように行っていたが、今年度は個人だけでなく集団にも着目し、特定の方しかできなかった作業も細分化する事でより多くの利用者楽しんで活動できるよ

う工夫を行っている。

- (3) 家族へ情報伝達を行い、ミスなどは最小限に抑え、起こった場合は迅速な対応に努める
今年度は送迎時の転倒事故もありミスなどを最小限に抑えることはできなかった。忘れ物や混入ミスもあったが、家族とこまめに連絡を取り合い、迅速な対応に努め、関係性を壊すことなく継続して利用していただいている。
- (4) 内部、外部の居宅介護支援事業所と連携を図り、利用者獲得へ繋げる
コロナの影響もあり新規利用者の受け入れが困難だった。しかし居宅介護支援事業所とは電話連絡などで連携を図れている為、今後の新規利用者獲得へ繋げていく。
- (5) 職員間の情報共有、育成及びサービスの向上
毎日の朝礼により利用者の状況を職員間で共有できている。研修についてはコロナ禍でも行える形態に変化させて行っており、職員一人一人の能力向上やサービス向上につながっている。

要介護度別延べ利用者数								合計	営業日	平均/ 日
年度別	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	身障			
R3年度	633	962	2,371	1,566	879	496	0	6,907	308	22.45
R2年度	721	1,553	2,420	1,667	1,036	502	0	7,899	307	25.72
増減	-88	-591	-49	-101	-157	-6	0	-992	0	-3.27

ならやま園ホームヘルプステーション

令和3年度も新型コロナウイルスの感染拡大により、利用者の安全を第一に考えて感染予防に留意して支援にあたった。

- (1) 利用者のニーズに合ったサービス提供
認知症、特定疾患、障害者支援、ターミナルケア等、個々に適した援助内容を実施して安心して在宅生活を送れるようにサービスの提供を行った。
- (2) 登録ヘルパーの確保
サービス提供責任者3名と非常勤ヘルパー11名で事業を行い、入職のヘルパーはなかった。定着率もよく離職も無いが、今後も登録ヘルパーの人材確保に努めていきたい。

訪問介護・介護予防延数

	介護	予防	計
R3年度	6174件	1580件	7754件
R2年度	5242件	2203件	7445件
増減	+932件	-623件	+309件

ならやま園居宅介護支援事業所

令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ケアマネジャー業務を在宅ワーク中心と

し、利用者宅訪問も必要最低限に制限せざるを得ない年度であった。ZOOM アカウントを取得した事で、コロナ禍でも会議や研修の実施、ケアマネジャー間の情報・連携を密に取る事が可能となった。今後のケアマネジャー業務の見直しを検討していく年度となった。

(1) 地域包括支援センターとの連携と業務について

介護予防ケアマネジメントに関しては平城、北部、三笠、伏見、登美ヶ丘、京西・都跡、二名・若草の8包括との給付管理を伴う連携を行った。給付管理には至らなくとも必要に応じて各地域の包括支援センターとの情報共有に努めた。活動圏域は奈良市全域に広げて業務を行っている。

(2) 居宅介護支援事業所としてのレベルアップについて

事業所内でのケアマネジャー会議を週1回継続して行っている。令和3年度はZOOMも活用し、49回開催し、情報共有等に努めた。また、平城地域の他居宅介護支援事業所との勉強会を年3回行い、情報交換を行った。

(3) 地域活動への参加について

地域ニーズを把握出来るように担当者を決めて継続的に地域サロンに参加している(月1回程度の定期参加が3ヶ所、年1~2回程度の不定期参加が2ヶ所)。殆どの地域でコロナウイルス感染拡大防止により休止中であるが、現在再開している一部地域に関しては参加している。

(4) 介護ケアマネジメントと適正化について

年々、相談内容が多種多様化しており、サービス調整も複雑化している。ケアマネジメントを行う上で、公正かつ中立なサービスの選択を行えるように利用者本位および自立支援を心掛けて支援にあたっている。

(5) ケアプラン作成件数と認定調査について

ケアマネジメントの質の向上の一つとして、奈良市委託事業である認定調査を行っているが、コロナ禍により今年度は必要最低限の受託数となった。

利用者延件数 (ケアプラン作成)

	予防	要介護	計
R3年度	751	1996	2747
R2年度	602	1743	2345
増減	+149	+253	+402

認定調査受託件数 (市町村委託総数)

R3年度	12
R2年度	50
増減	-38

ケアハウスニューライフならやま (定員15名)

令和3年度は2年度と同様コロナウイルス感染対策に重視し生活支援を継続した。入居者には、精神的ストレスや身体機能低下及び日常生活に不安を抱かれる場面が見られた。生活相談を受ける中、入居者の個々の思いを尊重し、精神面・身体面の様子を重視しながら不安な無く安心して生活して頂ける事を願い、接するように心がけてきた。又、今年度は移動スーパーの利用や訪問喫茶又、季節の作品作り等、個々で参加できる催し物の実施することが出来ほんの少しではあるが、気分転

換をして頂けたと思っている。今後もケアハウスでの生活に不安なく過ごして頂ける様、個々との話し合いの場を大切に、家族様、介護支援専門員との連携を取り支援を行っていく。

介護度（令和 4. 3. 31 現在）

	自立	要支援	介護 1	介護 2	介護 3～5	合計
男 性	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名
女 性	0 名	4 名	5 名	5 名	1 名	15 名
小 計	0 名	4 名	5 名	5 名	1 名	15 名

□委員会活動

（研修委員会）

今年度もコロナ禍の中での集合研修は難しく書面での研修となった。資料を配るだけではなく、アンケートや疑問などを募り、職員に何度もフィードバックを行い知識の習得に努めた。対面をしての研修ではなかったが、研修委員のメンバーと職員のコミュニケーションが取れる良い機会になった様に思う。外部研修についても ZOOM や YOUTUBE など WEB を利用してのものが大半となった。状況が落ち着けば集合研修も行い、職員の資質の向上に努めたい。

（感染症委員会）

今期は新型コロナウイルスを施設に持ち込まないために、利用者、職員を守るために、細心の注意を行ってきた。特に職員の体調管理、生活の中で自粛を促すなど、職員からの感染が起こらないように啓発をしてきた。また職員の家族の通う職場や学校などで、感染者や濃厚接触者が出た場合など早めに対応を行ってきた。緊張感の絶えない毎日であったが、感染者を出すことなく過ごせることができた。ゾーニングの研修については各フロアにて何度も行った。ゾーニングが必要な時にすぐに準備が整えることができるようになっている。今後の感染症の流行の状況を見ながら、都度、研修や勉強会を行っていききたい。

（危機管理委員会）

コロナ禍の中で年の 2 回の避難訓練、地震・風水害・土砂災害の避難訓練を書面で行った。また法人で作成した自然災害時の BCP（事業継続計画）を各事業所、フロアで共有した。

ヒヤリハット、インシデント、アクシデントリポートを毎月、振り返り事故の予防に努めた。

事故予防、安全対策、交通安全など書面での研修を行った。コロナウイルス感染症の状況が落ち着けば、効果的な研修を行っていききたい。

□ 令和 3 年度 実習生受け入れ状況

* 令和 3 年度は感染症対応のため、受け入れは行わなかった。

特別養護老人ホーム平城園 (定員 70 名)

ユニット型 特別養護老人ホーム平城園 (定員 40 名)

令和3年度もコロナウイルスとの闘いは続いた。感染症対策に一定の成果があり、第五波、第六波を経る中、特養利用者に感染者を出すことなく年度を終えることができた。一方で、利用者の社会参画という観点からは課題があり、改善に向け、感染症対策を講じたうえでの日常を取り戻す準備期間の年度でもあった。平城園では、助成金を活用し感染症対策を考慮した面会室を整備した。この面会室を活用し、実面会を再開することが可能となった。

令和3年度は、コロナの影響もあり内向きの活動が多くなってしまい、地域貢献等の外向きの活動に課題が残った。令和4年度は視野を広げ、また、福祉とは何かを問い続け、利用者、家族の皆様、地域の皆様に認められるよう、職員一同、挑戦を続けて参る。

○介護部門

・従来型

1) 体制づくり

依然コロナ禍であったが、感染予防を継続しつつ、コロナ前の生活にはどのように取り戻せるかを考え、利用者に少しずつ安全で安心した日常生活を送っていただけるよう取り組んだ。

記録ソフトを導入、使用開始しているが、まだ記録のスリム化には至っていない。今後も記録ソフトへの移行を実施していく。

2) 人材育成・雇用の安定化

感染予防を行いながら介護福祉士の実習生を積極的に受け入れてきたが、雇用に繋げることが出来なかった。今後も引き続き実習生の受け入れを行い、介護の魅力を伝えていく。

就職フェスタやハローワークの取り組み等へ積極的に参加、ホームページの見直しなども行い、求人募集を積極的に行うことにより、徐々に応募が増えてきている。引き続き求人活動を行い雇用に繋がられるよう努力する。

3) 災害計画の充実

コロナ禍での防災訓練実施は難しい状態であった。園内研修を通して事業継続計画(BCP)、感染予防対策を学び災害への意識づけを行った。今後も特に感染予防に対しては継続した学びや、環境の整備を行い利用者、職員が安全、安心に過ごせるよう取り組んでいく。

・ユニット型

1) 個別ケアの充実

個々の希望や状態に添った関わり、ケアの見直しを行った。心身状況の変化に合わせてながらスタッフ間で情報共有に努めることで概ね、統一したケアに向かうことはできた。

感染症対策により、入居者に接する時間が限られることも度々あった。

感染症対策を維持しながら、ゆとりをもって関わる時間づくりを考えていきたい。

ユニットケアの理解に向け、異動等で新しくきた職員への基本的な考え方、会議等を通してケアの在り方等を全体に伝えていくことも概ねできた。今後も、職員一人一人の思いや考え方を活かしながら、今後も、ケアについて理解を深めていけるよう発信に努めたい。

2) 環境づくり

感染症対策により、密とならない空間づくりを実践した。パーティションで区切る、テーブルや家具等の配置換えで共有スペースを最大限に活用した。入居者同士の距離を取りつつ、適度に人の気配や生活音を感じられる、安心できる生活空間づくりができた。

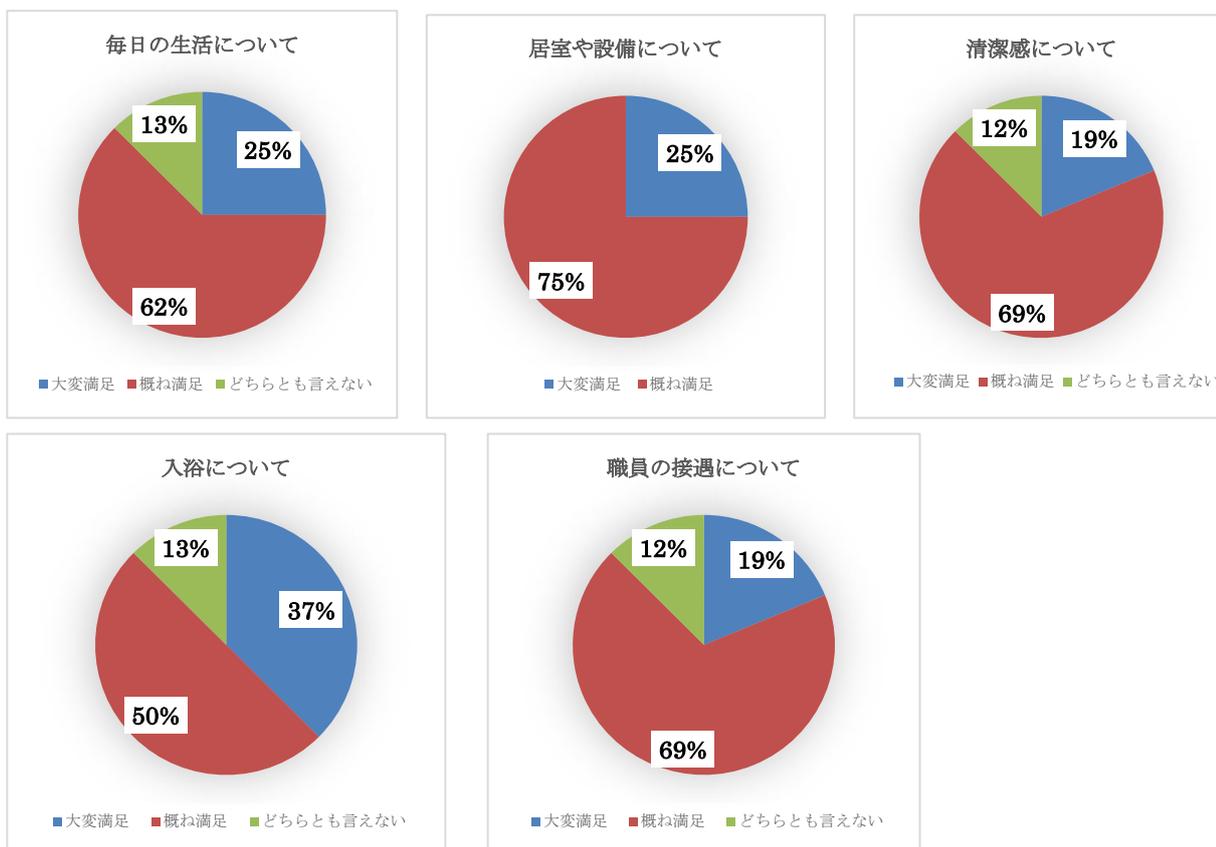
各居室については、昨年度と同様に個人差があり、すまいとして感じられる空間づくりはなかなか進まなかった。

入居前の状況の他、面会の制限で、ご家族に生活環境全体を実際に見ていただくことができない状況も一因であったと考える。

◇ 特養 満足度調査 (令和4年3月実施 N=16)

調査目的：利用者の生活向上、職員の意識向上のため利用者の満足度を調査し、より快適に生活して頂くため利用者にアンケートを実施した。

※下記5項目について、1.大変満足 2.概ね満足 3.どちらとも言えない 4.やや不満 5.大いに不満の5段階評価にて回答してもらった。



アンケートにて頂戴したご意見（抜粋）

<毎日の生活について>

- ・外出ができない
- ・楽しいです

<居室や施設の設備について>

- ・個室がよい
- ・満足です

<施設の清潔感>

- ・きれいにしてくれてうれしい
- ・良いです

<入浴全般について>

- ・1人ずつゆっくり入れる
- ・入浴時、寒い時がある
- ・入浴しやすい
- ・極楽です

<職員の接遇について>

- ・大満足です
- ・よくやってくれている
- ・色々な人がいます

○介護サービス支援室

新型コロナウイルスの感染予防等、まずは安全、安心に生活して頂けるように支援をした。安全を最優先にする中で、面会については、利用者および家族に不自由をおかけすることもあったが、関係性を継続できるよう、感染状況に鑑みながら、WEB面会、ガラス越しでの対面面会を交互に行った。ホームページでも園内の様子を随時公開している。

人材育成の面では、新しい生活様式に沿いWEBでの園内研修を確立した。コロナ禍でも、専門家によるWEB研修を利用することで、研修の充実を図り、参加率も向上し、人材育成に貢献出来た。

ICTへの取り組みについては、介護ソフト「ほのぼの」を導入し、請求業務については、年度内に完全移行できた。更なる活用に向けて、各種記録や必要書類の作成なども試験的にソフトを利用

した。次年度へ向けては、記録等についてもソフトへ移行し、業務の効率化、ケアの質の向上を目指したい。

感染防止のため、施設見学を頂けない日が続き電話やメールで対応したが、感染状況が落ち着いた際には、タブレットを使用し、園内の説明を行い施設の魅力をPRした。

安定稼働に対しては、園内のコロナ感染防止対応のため、4月～6月まで新規入所者の受け入れを中止する等の影響があり、ユニット型、従来型ともに前年度の稼働率を下回った。安全に新規利用者を受け入れるため、入園後は一定期間個室対応するなどの対応を行った。

①在園年数

・従来型

在園年数 (R4.3.31 現在)								単位：人	ユ ツ 型
	1年未満	1年～ 3年未満	3年～ 5年未満	5年～ 7年未満	7年～ 10年未満	10年以上	合 計		
男性	5	1	1	0	単位：人				
女性	16	20	8	3	4	1	52		
合計	17	23	13	4	6	1	63		
男性	2	2	4	8	平均在所日数 ■男性 4年0ヵ月16日 □女性 2年10ヵ月22日				
女性	7	13	9	29	平均2年11ヵ月29日 (1092日)				
合計	9	15	13	37	平均在所日数 ■男性 2年4ヵ月19日 □女性 2年4ヵ月27日 平均2年0ヵ月14日 (744日)				

従来型

入所者年齢構成 (R4.3.31 現在)								単位：人
	70歳未満	70歳～ 75歳未満	75歳～ 80歳未満	80歳～ 85歳未満	85歳～ 90歳未満	90歳～ 95歳未満	95歳 以上	合 計
男性	0	0	3	2	4	3	0	12
女性	0	1	7	8	12	15	8	51
合計	0	1	10	10	16	18	8	63

・ユニット型

入所者年齢構成 (R4.3.31 現在)								単位：人
	70歳未満	70歳～ 75歳未満	75歳～ 80歳未満	80歳～ 85歳未満	85歳～ 90歳未満	90歳～ 95歳未満	95歳 以上	合 計
男性	0	1	0	1	3	1	2	8
女性	0	0	2	1	5	13	8	29
合計	0	1	2	2	8	14	10	37

・従来型

・ユニット型

	最低年齢	最高年齢	平均
男性	78	94	85.4
女性	73	107	87.8

	最低年齢	最高年齢	平均
男性	72	101	88.4
女性	79	101	91.7

利用者の状況

・従来型

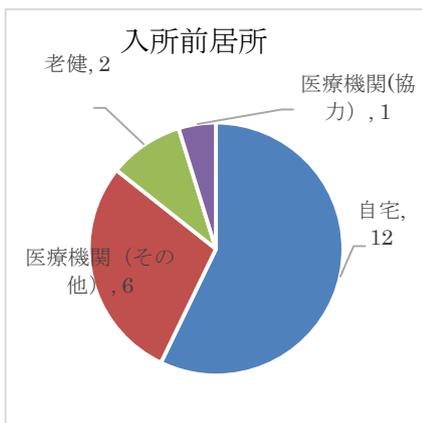
	性別	年間合計数
新規入居者	男性	3名
	女性	18名
退園者	男性	5名
	女性	17名

・ユニット型

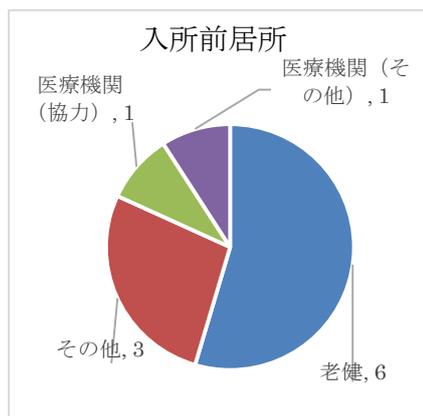
	性別	年間合計数
新規入居者	男性	2名
	女性	9名
退園者	男性	0名
	女性	13名

入園前の状況 (単位：人)

・従来型

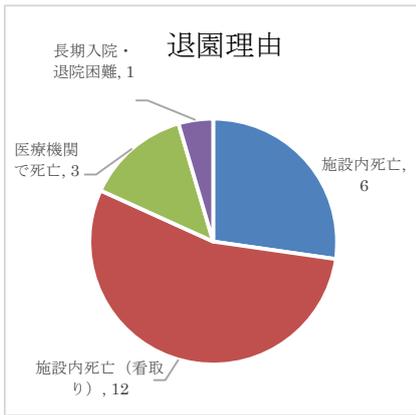


・ユニット型

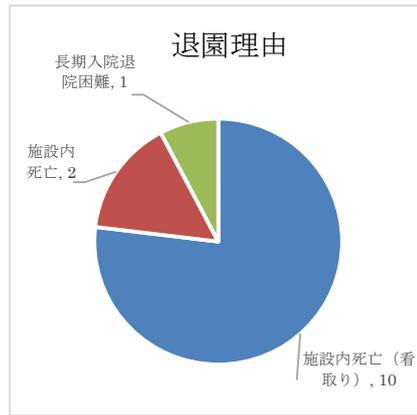


退園理由 (単位：人)

・従来型



・ユニット型



① 介護度別延べ人数

・従来型

年 度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計	介護度平均
R3 年度	0	0	9898	8973	4581	23452	3.77
R2 年度	0	0	11552	6841	5783	24176	3.76

・ユニット型

年 度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計	介護度平均
R3 年度	0	0	6363	4320	2873	14170	3.89
R2 年度	0	209	4490	5089	3858	14170	3.89

○看護部門

目標：利用者の人権を尊重し「安全・安心」「納得・信頼」のある看護を提供する。

1) 利用者の健康管理と異常の早期発見

介護職員との連携を密にして異常の早期発見と、日々の状態観察を行い利用者の変化を速やかに医師に報告、指示のもと健康保持に努めた。

基礎疾患を有する利用者が多く、一人が複数の診療科を受診するケースがある。医療機関への受診は(定期通院・検診レントゲンを含む)454件（前年度 403件）、入院した利用者は16名（前年度 27名）だった。（図1と図2）

2) 感染症の対策

奈良県においても感染の拡大が続き、年間を通して感染症対策を実施したが令和3年4月と令和4年2月に職員の感染が発生した。

迅速な対応を行い入所者や職員へ感染が拡大することは終息した。

家族の面会方法をガラス越し面会やWEB面会など流行状況に合わせた対応を実施し、外部か

ら施設内に持ち込まないための対策を徹底した。職員は通常時の手洗い手指消毒、マスクやフェイスシールド・ゴーグルの着用の徹底、体調管理に努め、職員はもとより、職員家族の体調にも留意し施設全体で感染症への意識を高め取り組んだ。

3) 利用者・家族に納得いただける看取り介護の提供

本年度園で亡くなられた利用者は 30 名（前年度 21 名）、うち看取り介護を受けられたのは 22 名だった（前年度 13 名）。

新型コロナウイルス感染症対策により、面会の制限やWEB面会に変更する等の対応をとる中、看取り期の利用者とその家族に対しては、十分な感染拡大防止対策を実施したうえで、家族との時間を静養室にて過ごしていただくことができた。

偲びのカンファレンスは今年度も実施することが困難であったが、職員間では故人を偲び、ケアの振り返りを行い今後のケア向上に繋がるよう努めた。

4) 褥瘡発生予防の体制

3 か月毎の褥瘡ケア計画書の作成および評価を行い、多職種協働により褥瘡の発生予防に努めたが、今年度は褥瘡の発生により 2 名医療機関への入院があった。褥瘡予防に対してWEB研修を行い職員の認識を深めるとともに、発生時は早期治癒に向けて診療所と連携して対応した。

5) 医療的ケア(喀痰吸引・胃ろう)の研修

本年度も感染拡大防止の為、奈良県における喀痰吸引等の基本研修が実施されず受講できない状況であったが、採用時に基本研修を終了していた職員 4 名に対し園内での実地研修を終了し、認定特定行為業務者認定証を取得した。

医療的ケア推進対策委員会を定期開催し、医療と介護で連携を図り安全に実施することができた。

図 1 <利用者の受診・入院状況>

(単位：人)

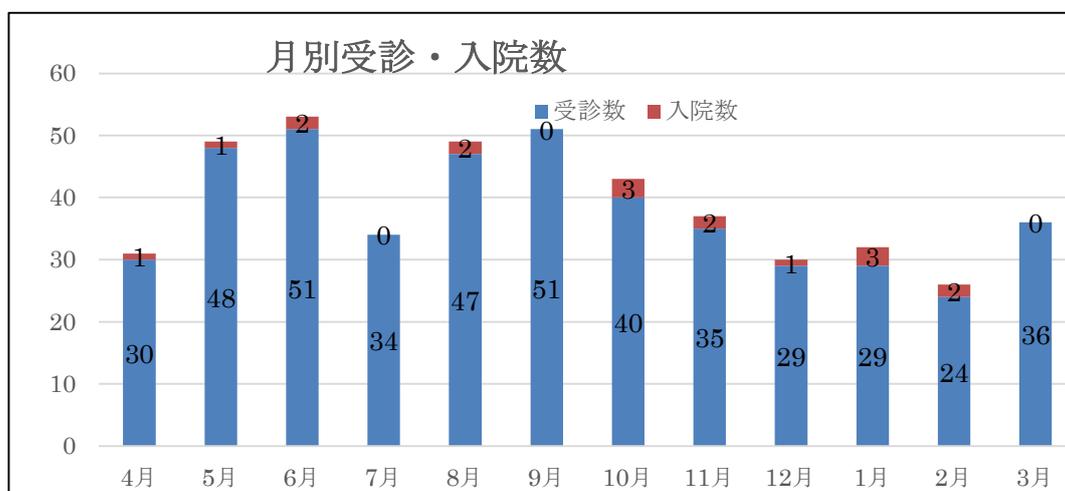
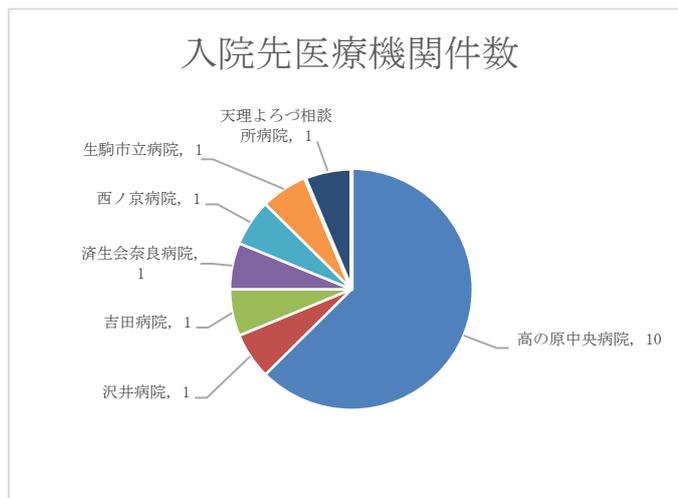


図2 <入院医療機関>

(単位：人)



○個別機能訓練部門

利用者及び家族の意向を尊重し、多職種連携のもと「身体機能」「生活機能」の維持・向上を図る。

- 1) 利用者一人一人を、主観的及び客観的評価を基に個別機能訓練計画書を作成し、身体機能を維持・向上の為に科学的根拠に基づいた機能訓練を実施する。

立位時間や歩行速度に対して数値化し、安全性および経過観察が行える客観的評価を行うようにした。また、同職種内で入居者様の訓練を共有し、多角的視点にて訓練を実施することができた。

- 2) 個々の身体機能を把握し、環境整備・自助具の選定を行うと共に、転倒・転落を予防するために介護職員へ移乗方法や歩行介助の方法を指導・伝達を行い、利用者が安全に生活できる環境を整える。利用者の状態に合わせ、転倒・転落リスクをなくすために歩行器やシルバーカーの導入、多職種間での情報共有や介助方法の指導を行い、安心・安全な環境作りに取り組んだ。
- 3) 個々の能力に合わせた歩行や車いす自走での移動など、日々能力に合わせた離床を行い、生活がリハビリテーションとなるよう、他職種連携を積極的に行い、床上での生活時間を短縮し利用者の身体機能の維持を図る。

入居者様の身体状況を正確しフロアに伝え、感染対策として密にならないよう身体機能の維持・向上を目的に積極的に離床を進めて頂く事が出来た。

- 4) 体動が困難な利用者には、適切なポジショニングを行い関節拘縮、褥瘡の予防を図る。機能訓練時だけでなく、各職種が生活の中で無理のない範囲で関節を動かすと共に、褥瘡予防の為にポジショニング指導も行い、一定時間ごとの体位変換を実施することができた。

	居室訓練（フロア）			ベッドサイド（居室）			合計 (人)
	従来型	ユニット型	合計	従来型	ユニット型	合計	
R3 年度	2171	810	2981	860	527	1387	4368
R2 年度	3871	1953	5824	1822	887	2709	8533

○栄養管理部門

1) 食べて頂ける食事の取り組みについて

旬の食材を盛り込んだ行事食、お誕生日食、選択食等の実施により、季節の移り変わりや生活の中に変化と楽しみのある食事を提供できた。

2) 利用者に適した食事形態や個人の嗜好・療養状態に配慮し、心身の満足と栄養状態の改善に取り組めた。

3) 新型コロナウイルス感染症防止の為、回数は少なかったが、感染症防止策を徹底しながら、フロアごとにおやつパーティーなどニーズに合わせたサービスが実施できた。

4) 栄養ケアマネジメントの実施

介護部門、看護部門との連携により、一人ひとりの身体状況に適した食事の提供と共に、カンファレンスの中で効果的な栄養ケアマネジメントが実施できた。経口維持食に関しては、今年度も条件に合う対象者がいなかった。

5) 災害用の備蓄について

災害に備えて、3日分(9食分)の備蓄内容の見直し、備蓄食品の保管場所と使用方法を給食会議で確認し、多職種での情報共有を実施できた。

6) 配食サービスについて

高齢者に適した食材、栄養バランス、嗜好に合わせ、衛生面にも注意して作り、提供できた。

7) デイサービスについて

季節感のある食事や行事食を提供できた。

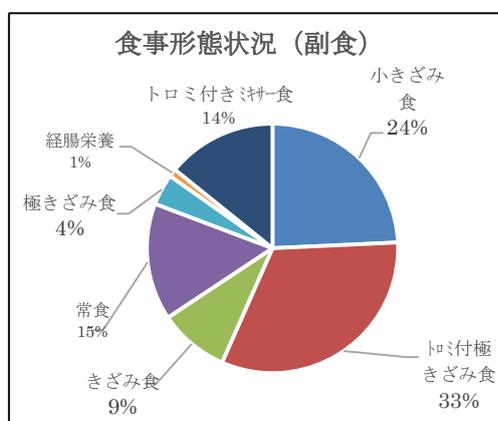
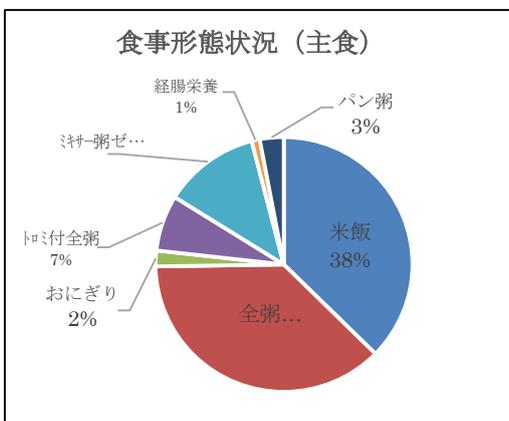
8) 事業内保育園について

子どもの年齢に合わせた食事の提供と安全でおいしい食事の提供ができた。

○療養食加算実施状況令和4年3月末時点人数(実人数4人 4.0%)

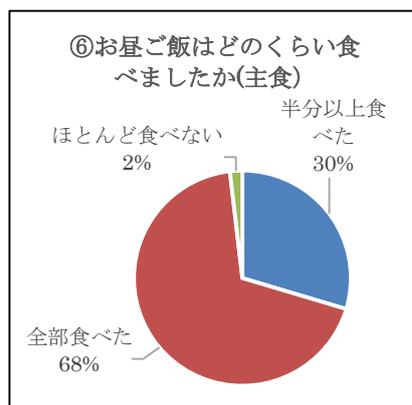
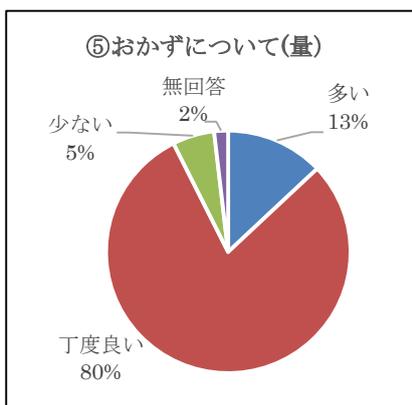
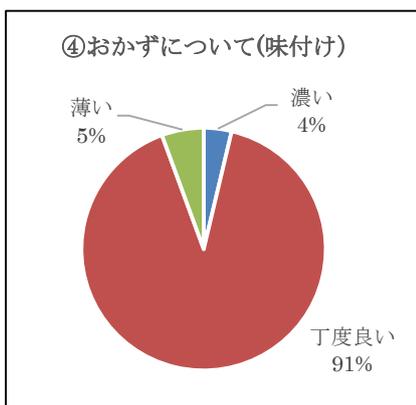
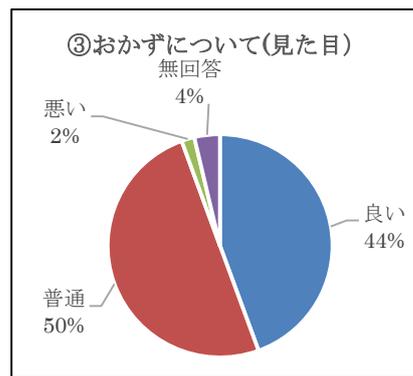
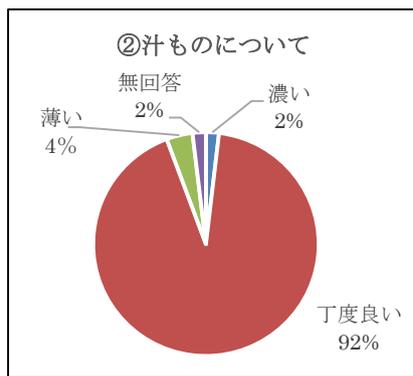
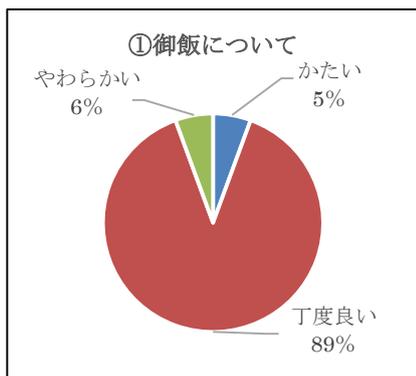
療 養 食 名	人 数	療 養 食 名	人 数
糖尿病食	4人	貧血食	0人
脂質異常食	0人	心臓病食	0人

<R4年3月 食事形態状況(個別対応)>



◇特養満足度調査(嗜好調査)結果

令和4年3月実施



*お食事についての希望 (抜粋)

- ・あつあつのお好み焼きが食べたい
- ・国産の牛肉がいい (食べたい)
- ・やわらかくてふわふわしたものがいいです

○ボランティア部門

今年度も新型コロナウイルス感染症対策のためボランティアの受け入れや外部からの慰問は再開することができなかったが、利用者に使用する清拭用のタオルを手縫いして頂くなどの活動は継続することができた。感染対策を実施した上で職員が居室を訪問し、ピアノ演奏や飲み物の提供、傾聴の時間を設ける等の活動を工夫しながら実施し、利用者に喜んでいただくことができた。引き続きコロナ禍でも利用者を楽しんでいただける活動を実施していく。

奈良デイサービスセンター (定員 30名)

1) 感染症対応の徹底について

新型コロナウイルス感染対応により、令和3年4月に10日間、令和4年1月と2月に合わせて6日間の休業を行い利用者へ不便をかけたが、蔓延する事なく営業を再開することが出来た。今後も感染症対応を徹底し、安全で安心して利用頂けるサービスを提供していく。

2) デイサービスの規模拡大について

利用状況が徐々に上がってきた為、令和3年10月1日から定員を25名から30名へ変更した。土曜日営業については未だ開所出来ていない。コロナウイルスの感染状況や職員体制が整い次第開所して行く。

3) 職員の介護技術向上について

人事異動もあり、介護経験年数がある職員が増えた。今まで行ってきた介護技術に幅を持たせ、「いかに手伝わず利用者にして頂くか」その為に、利用者のADLを把握した上での必要な支援をミーティングで共有し、環境面も含め統一した支援を行っている。

延利用人数

年度	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	営業日数	平均/日
R3年度	732	1130	1998	594	415	78	4947	241	20.52
R2年度	541	977	1339	420	477	0	3754	257	12.55

※令和3年4月～令和4年3月迄

平城園ホームヘルプステーション

- 1) 訪問介護員の高齢化に伴い新たな人材確保に努め、安定した利用者へのサービスの提供を継続する。

登録ヘルパーの新規採用は、令和3年4月に2名採用したが、うち1名は退職したため1名の増員となった。登録ヘルパー16名のうち7名は70才以上、平均年齢も68才という状況であり

ICT導入等も難しい現状である。募集内容も見直し、積極的に採用に繋げたい。

- 2) 居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携を深め、ケアプランに基づいた質の高い介護サービスを提供し、個別の状況に応じたサービスを提供する。

個々の援助目標、日々変化する利用者の状況に応じた個別のサービス提供について、各事業所とコミュニケーションをとり円滑なサービス提供を行った。

利用者への満足度調査では大変満足54%、満足18%、どちらともいえない5%、不満0%、無回答23%という結果であった。今後も利用者や家族の要望に寄り添ったサービスの提供を目指し、今後はヘルパー会議も少人数で開催するよう工夫し、ヘルパーの接遇、技術の向上、情報共有の場としたい。

感染症対策に関しては、定期的な研修や最新情報の共有を図った。令和3年8月に職員が1名陽性となったが、利用者や職員への感染拡大はなかった。令和3年4月の同法人の入所施設での感染症発生時には清潔面での支援を実施し、協力体制をとることができた。

	介護	予防	計
R3年度	6262件	2248件	8510件
R2年度	6173件	2593件	8766件

訪 護・ 予防延数	増減	+89 件	-345 件	-256 件	問介 介護
-----------------	----	-------	--------	--------	----------

※障害者総合支援事業 1 件

平城園ショートステイサービス（定員 10 名）

本年度、従来型（10 床）とユニット型（空床利用）でショートステイの受け入れを行った。感染症予防の対策等を徹底し、先ずは安心してご利用頂けるように受け入れ体制を整えた。利用居室については、原則個室対応とし、感染症予防の観点から、安心して利用できること好評を得た。

園内のコロナ感染防止の対策で 4 月～6 月は受け入れを中止した。また、地域のコロナ感染状況を鑑み、受け入れ制限を行うこともあり、ご利用者、家族、担当ケアマネジャーに迷惑をおかけする 1 年となった。一方で、コロナの感染の不安から、自宅へ戻ることを不安に思っておられる方については、居室を確保し、一定期間利用して頂く等の配慮をした。稼働率としては、利用人数は減少したものの、1 人当たりの利用日数の増加により、昨年を上回ることができた。

受け入れ時に想定していなかった事象が起こった場合などには、受け入れフロアや医務室などの関係各所と連携しながら、対応をし、新たな仕組みづくりへ繋げた。利用者、家族、ケアマネジャーから頂いた意見は常に現場にフィードバックし、より満足度の高いサービス提供を目指した。

	延利用 日数	利用者 数	介護度別利用日数						
			要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
R3 年 度	4350	230	10	52	67	512	2041	1482	186
R2 年 度	4079	242	0	0	99	640	2050	1274	16

平城園在宅介護支援センター

令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の 2 年目に入り、5 月のゴールデンウィーク明けより 7 月にかけて感染者数が過去最高を記録し、9 月末まで感染力の強いデルタ株が猛威を振るう事となった。10 月には比較的感染は下火になったが、11 月頃より変異種であるオミクロン株が日本に入り始め、12 月の末にはオミクロン株への置き換わりによる感染の急激な拡大となり、明けて令和 4 年 1 月から 2 月は当事業所の利用者にも陽性者が出るなどの状況に陥った。近隣のサービス事業所からも連日のように陽性者、濃厚接触者の情報が FAX でもたらされた。当事業所でも日々の業務においては、分散出勤や訪問を必要最小限に控える事で人と人との接触を抑制し、感染拡大を防ぐ努力を続けてきた。幸いワクチン接種も進み、当事業所から陽性者が出る事は無かったが、サービス事業所から陽性者あるいは濃厚接触者に当たるためにヘルパーが訪問できない、デイサー

ビスに通っていただけない等、サービスが滞る事でご利用者の日常生活の維持が困難になる事態が複数発生し対応に苦慮した。また利用者が感染を懸念しサービスの利用を控える事が増え、1ヵ月を通して一切サービスの利用が無くなる事で、ケアマネジャーの支援費を算定できないケースが昨年に引き続いて出た。また感染拡大防止の観点から認定調査については、自施設内の調査に限定した事で1/3程度の件数となった。また利用者延件数(ケアプラン作成)については介護の件数は減少したが、予防の件数が増加し相対的には増加した。施設入所やお亡くなりになるなど要介護の方の終了が重なったが、各地域包括支援センターより新規ケースが順調に来ており、数字にも表れている。

- 1) 昨年度は書面のみの対応になっていた『他の法人が運営する居宅介護支援事業所と共同の事例検討会・研修会の開催』については、新型コロナウイルス感染症対策の2年目という事もあり、各事業所が ZOOM による Web 会議開催にも慣れてきた事もあり、昨年のように中止される事がほぼ無くなった。
- 2) 年度末の3月には新しく1名のケアマネジャーが主任介護支援専門員研修を終了し、4月(令和4年度)より主任介護支援専門員として勤務に従事する事となる。
- 3) 令和4年3月末に予定していた実習生受け入れは予定通り実施できた。

利用者延件数(ケアプラン作成)

	予防	介護	計
R3 年度	704	1377	2081
R2 年度	546	1490	2036
増減	158	-113	45

認定委託件数 (奈良市委託)

R3 年度計	9
R2 年度計	25
増減	-16

ウイルス秋篠

年度初めの4月と年度末が近くなり第6波の到来した2月に、ウイルス秋篠のご入居者からコロナウイルス陽性者が発生した。4月のケースでは感染経路の特定は早かったものの、食事の提供体制や陽性者となった方と他の入居者の接点と考えられる場面が数日にまたがりあった事から、外部からの人の出入りを一切遮断し対応にあたった。陽性者は1名のみで判明から早期に入院することが出来たため、その他の全入居者に対して2週間にわたり外部との隔離期間を設け、その間居室での生活が滞りなく行えるように、物品の支給や精神面のケアに努めた。また、外部サービスの手を必要とする最低限のケアについては、法人を挙げてフォロー体制を組み、特に奈良デイサービスと平城園ホームヘルプステーションが中心となり入浴を中心とした清潔面での保持の機会を提供することが出来た。この4月の経験をもとに、より一層の感染症対策に取り組むこととなり、万が一陽性者が出た場合でも他の入居者にできるだけ影響が出ないように、普段の業務の在り方やサービスの提供の方法などを見直すことに繋がった。

その甲斐もあり、2月に陽性者が判明したケースでは2名の陽性が判明したが、同一ルートからの持ち込み感染であることを直ぐに特定し対応にあたる事が出来た。このケースについては陽性者とその他の入居者の行動履歴と普段からの感染対応の状況を鑑み、しっかりとしたゾーニングが出来ていると判断し、地域の事業所の中では先駆けて、陽性者のみを居室隔離しその他の入居者に

については外部サービスの出入り等については制限をかけずに通常体制で対応をした。その実施については、地域の関係事業者に対して隠すことなく、普段行っている対応と状況についてタイムリーに報告を行い、またそれを受けての対応については各事業者の対応を尊重するなど、地域における住宅系事業所のその後の対応について、リーディング事業所としての意識を持ち一定の道筋をつけることが出来たと考える。

ただ、可能な限り陽性者の発生を0にしていくことが望ましいことには変わらず、今後についても更なる対応を重ねていきたい。

運営面については、コロナ陽性者が発生したことにより、イベントの実施や提供サービス面で少なからず影響があり、ご入居者やご家族に対して本来提供できるサービスを提供できない面もあご不便をおかけすることもあった。ただ、機会を重ねるごとに感染対策と提供サービスのバランスについても、規制重視ではなく安全を確保できる術と裏付けを積み上げていく事で、他のサ高住よりも「コロナ禍であっても、ご入居者やご家族にとっての選択肢を多く提供できるよう」努めた。今後については、「日常生活を一日も早く取り戻す」べく、色んなことに積極的に取り組んでいきたい。

・月別入居契約数（毎月1日時点）

月	R3.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R4.1	2	3	平均
契約戸	43	43	42	43	42	45	43	44	43	44	44	44	43.3
契約率	93.4	93.4	91.3	93.4	91.3	97.8	93.4	95.6	93.4	95.6	95.6	95.6	94.1

・年度内退去者 8件8名（男性3名 女性5名）

退去先内訳 ・法人内特養 1名 ・他法人特養 2名 ・自宅 1名
 ・他法人グループホーム 1名 ・死亡 1名

・年度内契約者 8件10名（男性3名 女性7名）

契約動機内訳 ・法人内居宅紹介 3名 ・他法人居宅紹介名 2名 ・地域包括 2名
 ・知人の紹介、口コミ 1名

・契約者数内訳：人（性別）

性別	契約数
男性	15
女性	31
合計	46

・年代別内訳：人（重要事項説明書に基づく）

年代	65歳未満	65歳以上 75歳未満	75歳以上 85歳未満	85歳以上	合計
合計	0	0	9	37	46

・介護度別内訳：人（重要事項説明書に基づく） 平均介護度：支援2

介護度	自立	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
合計	4	5	4	16	9	6	2	0	46

・福寿会在宅部門利用者数

内訳 ・居宅・・・27名 ・訪問介護・・・21名 ・訪問リハ・・・1名 ・通所介護・・・12名

・食事 契約者数・・・43名 自炊者・・・3名

・食事提供数

(単位：食)

	R3.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R4.1	2	3	合計	月平均	日平均
朝食	777	779	789	823	865	858	937	893	911	1005	949	1050	10636	886	29.1
昼食	855	821	763	776	818	801	860	856	895	970	899	951	10265	855	28.1
夕食	985	1033	991	1017	1050	1037	1126	1124	1152	1202	1144	1272	13133	1094	35.9
月合計	2617	2633	2543	2616	2733	2696	2923	2873	2958	3177	2992	3273	34034	2836	93.2

・生活相談件数

	R3.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R4.1	2	3	合計	月平均
件数	287	355	329	339	304	265	389	396	369	347	271	255	3906	325.5

・健康相談件数

	R3.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R4.1	2	3	合計	月平均
件数	-	-	-	-	11	8	6	5	6	6	1	5	48	6

・有償サービス利用件数

	R3.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R4.1	2	3	合計	月平均
件数	16	24	36	38	31	64	53	53	65	94	81	59	614	51

・入居活動件数

	R3.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R4.1	2	3	合計	月平均
営業	2	2	6	5	6	5	5	6	5	4	2	4	52	4.3
問合せ	3	6	5	4	4	5	6	6	7	8	9	7	70	5.8
見学	1	2	3	3	4	3	4	5	5	4	2	3	39	3.2
見学者	1	5	8	6	7	6	7	9	8	9	6	7	79	6.5
入居相談 面接	2	2	7	5	7	5	5	6	5	5	2	4	55	4.5

・イベント実施報告

	R3.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R4.1	2	3	合計	月平均
実施数	14	14	12	14	15	17	18	20	18	19	1	6	168	14
参加者	120	114	133	141	169	227	262	177	212	248	46	127	1976	164.6

・生活支援バス利用者数

	R3.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R4.1	2	3	合計	月平均
西大寺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高の原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

買い物等	81	62	72	74	86	88	66	74	104	100	106	86	999	83.2
合計	81	62	72	74	86	88	66	74	104	100	106	86	999	83.2

平城園診療所

特養の入所者に関しては、医務室看護師と連携し、利用者の健康管理と日常的な診療を行い、疾病予防医療についての運営に努め、重症者については関連病院との連携により迅速に対応した。法人職員に関しては、産業医による定期健康診断の実施及び、衛生管理者との連携を図り、業務による疾病予防と健康管理に努めた。

新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種は、法人内施設の入所者及び法人全職員を対象に3回目の追加接種まで終了し、インフルエンザ予防接種もワクチン供給困難な状況があったが例年通り実施することができた。また、施設におけるコロナ診療体制として、コロナ入院病床の逼迫に備え、入所者が感染した場合の治療薬の早期投与に対応できるよう診療体制を整備した。

一般外来診療については令和4年度からの診療所の新体制により、地域住民にも利用いただける診療所として取り組んでいく。

受診者数

(単位：人)

	利用者	法人職員	地域住民	合計
R3年度延人数	5,091	93	164	5,348
R2年度延人数	5,764	80	190	6,034

福寿会マミーズ保育園

4月より従業員枠1名、地域枠4名お迎えし新年度をスタートした。定期園児の空き枠を一時預かりで受け入れ、毎日10名前後の保育を行った。

コロナウイルスによる、感染、拡大防止の為、受け入れ時は、保護者からの体調面の変化等、聞き取りと触診、検温による受け入れを強化しての1年となった。

8月には定期利用園児が8名になり、地域の方からの定期利用希望の問い合わせが多く見られた。少しでも地域の方に多くご利用いただくため、12月には共同利用契約を結ぶことにより定員10名までご利用が可能となった。

施設訪問などの自粛、感染症対策を行いながらの保育となったが、秋には、園外保育を多く取り入れ、自然からの学びや、植物の栽培にも力を入れて保育を行った。

企業主導型保育事業ならではの地域に密接した、1人1人の子どもに寄り添った保育園に成長しつつある。利用者の利用目的、ニーズに寄り添い、利用目的をしっかりと保育士間で情報共有し、乳幼児期に大切な「情緒の安定」が保てるよう、今後も子ども一人ひとりに寄り添い、安全で地域に密接した保育をご提供していきたい。

・利用者延人数

(単位：人)

	R3.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R4.1		2		3	
	定	一	定	一	定	一	定	一	定	一	定	一	定	一	定	一	定	一	定	一	定	一	定	一
	期	時	期	時	期	時	期	時	期	時	期	時	期	時	期	時	期	時	期	時	期	時	期	時

0 歳 児	40	0	56	0	47	6	45	8	49	2	49	5	61	8	42	16	76	11	70	5	64	6	93	14
1・ 2 歳 児	37	36	41	35	45	42	49	38	60	26	54	37	73	30	76	39	96	27	74	18	57	8	80	25
3 歳 児	0	4	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
4.5 歳 児	0	16	0	10	0	5	0	7	0	19	0	0	0	2	0	0	0	0	0	7	0	1	0	2
合 計	77	56	97	45	92	53	94	54	109	50	103	42	134	40	118	55	172	38	144	23	121	15	173	41

福寿会配食サービス（奈良市委託事業）

コロナ禍での配食となり、実際に配食をお届けしている利用者が陽性者となるケースや、濃厚接触者となるケースも複数例あった。職員にはケースごとに感染症対策を確認し物品の支給を行い、食事を通して命を繋ぐこと、安否確認を行う事という本文に立ち返り、配食自体がストップしてしまうことの無いように努めた。その結果、利用者の状態に応じて、自分が感染しないように気を付け、また次の配食先に持ち込まないようにという意識が強くなり、弁当の受け渡し方法や場所、弁当の容器を使い捨てに切り替えるなど臨機応変な対応を身に着けることが出来たのは事業部としてはプラスであった。

また、年度初めに営業エリアの見直しを行い、非効率であった配食ルートを少し整えることが出来た。年度末にかけて、入院や施設入所などにより配達件数に減少傾向が見られた。配食サービス事業を撤退した事業所からの引き継ぎを狙っての営業なども行ったが、年度末時点で減少した分を補てんできるほどの回復は至っていない。

新年度にあたってはコロナや社会情勢に左右されることなく、「安心」と「健康」、そして「笑顔」をお届けするために引き続き営業活動や配達ルートの見直しに着手していきたい。

配食サービス実施状況

・奈良市からの委託配食数 ・自費による配食数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
市委託 配食数	1,481	1,484	1,491	1,588	1,539	1,532	1,476	1,490	1,446	1,309	1,270	1,435	17,541 (前年比+ 1,256)

自費による配食数	992	948	963	1,001	966	980	939	920	899	794	738	795	10,935 (前年比－1,560)
合計	2,473	2,432	2,454	2,589	2,505	2,512	2,415	2,410	2,345	2,103	2,008	2,230	28,476 (前年比－441)
配食日数	26	26	26	27	26	26	26	26	26	24	24	27	310
1日平均配食数	95.1	93.5	94.3	95.8	96.3	96.6	92.8	92.6	90.1	87.6	83.6	82.5	91.8 (前年比－1.1)

(1) 奈良市よりの新規委託件数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規件数	4	1	2	9	2	1	2	5	0	0	5	4	35 (前年比＋2)

(2) 令和3年度利用者数（令和4年3月31日現在配食者数）

- ・奈良市委託分 92名（前年比－8名）
- ・自費 51名（前年比－10名）

□委員会活動

<感染症対策委員会>

新型コロナウイルス感染対応のため集合での会議は中止し、奈良県感染症情報や厚生労働省からの新型コロナウイルスに関連した資料の配布等、常に新たな情報は職員全体で共有に努め、統一した感染症予防対策が出来るよう委員を中心に改善する事が出来た。平穏時から、標準的予防策を徹底し、職員出勤時の手洗い・手指消毒の励行、検温、マスクやフェイスシールド・ゴーグルの着用など、濃厚接触に当たらない対応を実践した。

令和3年4月と、令和4年2月に職員の感染が発生した為、フロアをゾーニングし感染拡大を防止する対応を迅速に行い、感染の拡大はなかった。これは、平穏時の標準予防策の徹底や、感染症を持ち込まないための職員及び職員の同居家族の体調不良時の報告体制、職員の意識づけができていたと評価できる。引き続き職員の意識の向上に努める。

<リスク対策委員会>

集合での会議が毎月開催できず、全体での共有や事故の検証、勉強会が十分にはできなかったが、書面で毎月の事故等の把握は継続して行い、各部署内で事故報告、再発防止の早期対策は概ね実施できていた。

委員会メンバーによる事故対策実施の継続と、身体拘束や高齢者虐待を未然に防ぐための知識と意識の向上を図り、各部署内の発信源としての役割を一層活かしていくよう努めたい。

<研修委員会>

園内研修については、コロナ禍においても、継続的に実施できるようお茶の水ケアサービス学院のネット配信サービスを利用し、WEB研修を開始した。専門家によるWEB研修を受けることが出来、分かり易いとの意見が多かった。理解度のテストも実施し、知識の定着をはかった。WEB研修であるため、参加調整がしやすく、参加率も向上し、人材育成に貢献出来た。

○令和3年度実習生受け入れ状況

学校名	人数	期 間
青丹学園	3名	令和3.5.13 ~ 6.9 (19日間)
	1名	令和3.7.26 ~ 7.30 (5日間)
	3名	令和3.9.6 ~ 10.13 (26日間)
	2名	令和3.10.25 ~ 10.29 (5日間)
	2名	令和4.2.1 ~ 2.27 (20日間)
京都福祉専門学校	2名	令和4.2.21 ~ 3.18 (20日間)
奈良県介護支援専門員実務研修	1名	令和4.3.28 ~ 3.29 (2日間)
日本メディカル福祉専門学校	1名	令和3.9.19 ~ 令和4.5.7 (24日間)

登美ヶ丘マミーズ保育園（定員 90 名）

昨年度に続き、コロナの影響を受けての令和 3 年度のスタートとなった。コロナ禍であっても子どもたちにとっては、保育園で遊ぶ「今」が心地よく幸せなものとなるよう、このような状況だからこそ何ができるのか、どうすればできるのかを考えながら保育活動を進めてきた。園内の消毒、換気、園児の手洗い・うがい・手指消毒・マスク着用（3 歳児以上）など、常に感染対策を万全にしながら、規模を縮小してのクラス別の運動会や参観、幼児クラスの京都水族館への遠足、作品展、生活発表会などの行事を行い、子どもたちや保護者の心を潤してきた。また、日常生活や遊びの中でも、小さな喜びをたくさん積み重ね、「楽しいな」「あしたも保育園に行くよ」と明日が楽しみになるような経験・内容を大切に、保育理念に掲げる「生きる力」「創造力」「温かい心」の育成に努めてきた。また、この地域は、新興住宅地にあり、大阪等からの移住者も多い。その中で「畑」は魅力あるもので「マミーズ農園」では、子どもたちが、季節の野菜の世話をし、収穫を喜び、給食時に調理し美味しくいただく等、食育にも力を注いだ。また、外部講師として外国人による英会教室、体操教室、ダンス教室などの活動にも積極的に取り組んだ。

令和 3 年 4 月には、80 名だった園児も、毎月の園児数を着実に増やすことができ令和 3 年 9 月には 92 名となり定員 90 名を満たすことができた。一時預かり保育については、11 月より、延長保育（17:00～18:00）と土曜日保育（9:00～17:00、延長保育有）を新たに設け、利用児の確保に努めた。広報活動等を工夫し、今後も継続して取り組んでいく。

令和 3 年度 登美ヶ丘マミーズ保育園 園児数 実績報告

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
4 月	7	18	18	20	8	9	80
5 月	7	18	18	20	8	9	80
6 月	7	18	18	20	8	9	80
7 月	7	18	18	20	8	9	82
8 月	12	18	21	20	8	9	88
9 月	16	18	21	20	8	9	92
10 月	18	18	21	20	8	9	94
11 月	18	18	20	20	8	9	93
12 月	18	18	20	20	7	9	92
1 月	18	18	20	19	7	9	91
2 月	18	18	20	19	7	9	91
3 月	18	18	20	19	7	9	91

令和 3 年度 一時預かり保育 利用児童数 実績報告

4 月	74
5 月	57
6 月	74
7 月	82
8 月	72
9 月	72

10 月	79
11 月	69
12 月	96
1 月	89
2 月	69
3 月	110
合計	950

令和3年度 登美ヶ丘マミーズ保育園行事報告

<実施日>

4月	3日	第2回 入園式	11月	16日	保育参観日 (0・1・2歳児)	
	19・20日	検尿		17日	保育参観日 (3・4・5歳児)	
5月	14日	遠足		16~22日	作品展	
	25日	内科検診 (1回目)		19日	玉ねぎの苗植え	
	末日	サツマイモの苗植え		30日	内科検診 (2回目)	
6月	8日	遠足ごっこ	12月	3日	年末特別警戒イベント見学 参加 (4・5歳児)	
	10日	歯科検診		7日	交通安全教室 (3・4・5歳児)	
	15日	眼科検診		24日	クリスマス会	
7月	6日	七夕集会	12月	1~31日	元気なならっ子約束運動 (3・4・5歳児)	
	9日	デイサービス利用者様と の交流 オンライン (4・5歳児)		1月	元気なならっ子約束運動→表彰される *コロナのため表彰式はなし	
	13日	保育参観 (0.1.2歳児)		2月	3日	節分
	14日	保育参観 (3.4.5歳児)			26日	生活発表会
8月	16~27日	個人面談	3月	3日	ひなまつり	
	1~31日	元気なならっ子約束運動 (3・4・5歳児)		15日	第2回卒園式	
9月	22日	大根の種まき	*園内研修			
10月	12日	運動会 (1・2歳児)	8/6	1歳児	11/19	0歳児
	13日	運動会 (3・4歳児)	9/6	4歳児	12/2	5歳児
	14日	運動会 (5歳児) 保護者参 観あり	10/26	5歳児	12/15	2歳児
	18日	芋掘り	11/11	3歳児	2/2	新任研
	25日	遠足 京都水族館 (3・4・5歳児) 遠足ごっこ (1・2歳児)	※毎月行事 避難訓練・誕生日会・身体測定			
	30日	奈良県立登美ヶ丘高校 秋風コンサート参加 (5歳児)				

(5) 令和3年度 出張・研修結果一覧

今年度の研修についても昨年と同様に集合研修はほぼ中止となりオンラインでの会議や研修が中心となった。オンラインでの研修も定着し、昨年より多くの職員が参加できるようになった。

☆ならやま園

出張日	人数	出張先	目 的
6月3日	1	オンライン	養護、軽費ケアのR3改定解説動画
6月10日	1	オンライン	令和3年度奈良県老人福祉施設協議会 第1回テーマ別研修委員会 (Zoom オンライン会議)
6月16日～ 8月21日 (全 3回)	5	オンライン	平城地域包括支援センター令和3年度ネットワーク研修会
6月27日	2	オンライン	介護施設における安全対策担当者養成研修
7月7～ 9月22日	1	オンライン	令和3年度第2回認知症介護実践者研修
7月9日	1	奈良県社会福祉総合センター 5F研修室	令和3年度 奈良県地域包括・在宅介護支援センター協議会「令和の時代、 これからの地域包括・在宅介護支援センターに求められるもの」
7月21日～ 12月8日	1	オンライン	令和3年度奈良県認知症介護実践リーダー研修 職場実習
7月20～1月 21 (全11回)	1	オンライン	奈良県老人福祉施設協議会 介護福祉士ファーストステップ研修 (Zoom オンライン研修)
7月27日	1	奈良市西部会館市民ホール (学 園前ホール)	安全運転管理者講習会
7月27日・ 8月25日	3	オンライン	第三期 (令和3年度) 奈良県災害派遣福祉チーム (DWAT) 員募集登録に伴う 3府県オンライン1日合同養成研修 (大阪府・京都府・奈良県)
7月28日	1	オンライン	令和3年度奈良県老人福祉施設協議会 第2回テーマ別研修委員会
8月19日	1	オンライン	令和3年度奈良県認知症介護基礎研修
8月24・25・26 日	3	オンライン	令和3年度 近畿老人福祉施設研究協議会 大阪大会 (オンライン大会)
8月24日	1	オンライン	介護施設のメリットとなる介護ロボットの導入セミナー
8月26日～ 1月26日 (全 5回)	各日 1	オンライン	令和3年度奈良県老人福祉施設協議会 介護職員実践講座 (Zoom オンライン 研修)
9月2日・ 10月20日	1	オンライン	アドミニストレーターフォローアップ研修 (FU研修)
9月6日・ 11月8日	2	オンライン	令和3年度第2回認知症介護基礎研修

9月7日	1	県社会福祉総合センター5階 研修室B	令和3年度奈良県老人福祉施設協議会 第3回テーマ別研修委員会
9月7日	2	オンライン	そのだ修光参議院議員オンラインミーティング(奈良県)
9月11日	4	オンライン	令和3年度 顔の見える多職種連携会議中ブロック圏域研修会(平城圏域)
9月16日	3	オンライン	近畿老人福祉施設協議会 コロナ時代の採用を考えよう!「採用力強化研修会」
9月15日～ 12月2日(全 3回)	1	オンライン	令和3年度第2回認知症介護実践者研修
9月29日・ 11月24日	3	オンライン	福祉防災計画(BCP)策定研修会
10月6日	1	オンライン	令和3年度奈良県老人福祉施設協議会 介護職員実践講座2日目
11月8日	1	オンライン	令和3年度第3回認知症介護基礎研修
11月18日	1	田原本青垣生涯学習センター 弥生の里ホール	副安全運転者講習
11月19日	10	オンライン	第33回奈良県老人福祉施設職員研究会議(Zoomオンライン研修)
11月24日	1	オンライン	令和3年度奈良県老人福祉施設協議会 生活相談員・施設介護支援専門員合同研修会(Zoomオンライン研修)
11月30日	1	オンライン	令和3年度奈良県社会福祉法人経営者協議会青年経営者会 第2回オンライン勉強会:福祉現場のICT活用
12月10日	1	オンライン	近畿老人福祉施設協議会 経費老人ホーム・ケアハウス研修会(オンライン):相手のタイプに合わせた適切なコミュニケーション
12月18・19日	1	オンライン	第8回地域包括ケア実践研究会
12月27日	1	はぐくみセンター9階 大講 座室	新型コロナウイルスワクチン追加接種(3回目接種)説明会
1月12日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和3年度 奈良県高齢者虐待防止研修会
1月14日・ 2月18日	1	はぐくみセンター8階 中講 座室8-2	新人介護職員モチベーション向上セミナー
1月20日	2	オンライン	令和3年度 奈良DWA T研修
1月26日	1	オンライン	リモート講義「その人らしい最期を迎えるための看取り～利用者の死の向き合い方～」
2月16日	1	オンライン	令和3年度 奈良県障害者虐待防止・権利擁護研修:虐待防止責任者養成コース
2月18日	1	奈良県社会福祉総合センター 6階 第3会議室	令和3年度法人後見従事者養成講座 講師派遣
2月18日	1	はぐくみセンター9階 大講 座室	令和3年度 第2回奈良市特定給食施設等研修会

3月24日	1	オンライン	令和3年度 奈良県老人福祉施設協議会 在宅サービス研修会（動画配信） 「今後のデイサービスセンターの展望」～地域包括ケアから地域共生社会への展望～
3月31日	1	奈良県社会福祉総合センター	令和3年度介護支援専門員更新（専門）研修 講師派遣
3月31日	1	オンライン	第三者委員および苦情解決責任者・苦情受付担当者【合同研修会】

☆平城園

出張日	人数	出張先	目的
4月12日	5	オンライン	令和2年度介護保険施設等及び指定障害福祉サービス事業者等の集団指導の実施について
6月10日	1	オンライン	令和3年度奈良県老人福祉施設協議会 第1回テーマ別研修委員会
6月16日～ 8月21日	2	オンライン	令和3年度 ネットワーク研修会（3回シリーズ）
6月17日	2	オンライン	安全対策体制加算対応「介護施設における安全対策担当者養成研修」
6月17日	1	オンライン	第35回生活相談員いとも「LIFEについて」
7月9日	1	奈良県社会福祉総合センター	奈良県地域包括・在宅介護支援センター協議会 令和3年度第1回総会・セミナー
7月9日	2	平城園 地域交流スペース	平城地域勉強会「情報共有」
7月21日～ 12月8日	1	オンライン	令和3年度 認知症介護実践リーダー研修
7月27日	1	奈良市西部会館市民ホール	安全運転管理者講習
7月28日	1	オンライン	令和3年度 奈良県老人福祉施設協議会第2回テーマ別研修委員会
8月24～31 日	12	オンライン	令和3年度 近畿老人福祉施設研究協議会 大阪大会
8月26～ 4日間	1	オンライン	令和3年度奈良県老人福祉施設協議会 介護職員実践講座
8月31日	2	オンライン	令和3年度 第2回こ幼保合同研修会及びカリキュラム研修会
9月2日	1	オンライン	第40回 全国社会福祉法人経営者大会
9月6日	1	オンライン	令和3年度 第1回認知症介護基礎研修
9月7日	1	オンライン	令和3年度 奈良県老人福祉施設協議会第3回テーマ別研修委員会
9月11日	2	オンライン	令和3年度 顔の見える多職種連携会議中ブロック圏域研修会
9月15日～ 12月2日	2	オンライン	令和3年度 第2回認知症介護実践者研修
9月29日 11月24日	1	オンライン	令和3年度 奈良市老人福祉施設連絡協議会研修会
10月6日	1	オンライン	令和3年度奈良県老人福祉施設協議会 介護職員実践講座
10月29日 11月5日	1	はぐくみセンター	介護人材確保のための採用力向上セミナー

11月1日～ 6日間	1	eラーニング	令和3年度企業主導型事業「保育安全研修」
11月1日～ 11月27日	2	eラーニング	企業主導型保育事業 保育士研修（キャリアアップ研修）障害児保育
11月1日～ R4,2月15日	4	eラーニング	保育士キャリアアップ研修（障害児保育・乳児保育・保護者支援）
11月13日～ 12日間	1	オンライン	令和3年度奈良県主任介護支援専門員研修
11月19日	12	オンライン	第33回奈良県老人福祉施設職員研修会議
11月24日	2	オンライン	令和3年度奈良県老人福祉施設協議会 生活相談員・施設介護支援専門員 合同研修会
12月6日～	2	オンライン	令和3年度奈良市入退院連携支援「病院、介護支援専門員合同会議」
12月15日	1	オンライン	「なかまと共に主体的に活動する子どもをめざして」～子どもの心の動きを とらえて～
12月16日	2	登美ヶ丘マミーズ保育園	特別支援者研修公開講座
12月17日	1	オンライン	令和3年度奈良県老人福祉施設協議会オンライン施設長連絡会議
12月18～19	2	ホテルリガレー春日野	第8回地域包括ケア実践研究会
12月21日	2	オンライン	高齢者福祉施設等における新型コロナウイルス感染症対策研修会
12月26日	1	はぐくみセンター	新型コロナウイルスワクチン巡回施設内接種（3回目）説明会
1月20日	2	オンライン	令和3年度奈良県DWAT研修
1月24日	2	オンライン	R3年度奈良県介護保険認定調査分析事業における研修
1月27日	1	奈良県社会福祉総合センター	奈良県高齢者施設新型コロナウイルス感染症対応応援職員研修登録者研修
2月9～10日	1	オンライン	2021年度ユニットリーダー研修
2月16日	1	オンライン	令和3年度 奈良県障害者虐待防止・権利擁護研修
2月19日	1	オンライン	令和3年度 顔の見える多職種連携会議
3月10日	1	オンライン	令和3年度奈良県地域包括・在宅支援センター協議会第2回総会・セミナー
3月11日	1	オンライン	令和3年度奈良県老人福祉施設協議会第2回オンライン通常総会
3月13日	1	奈良コンベンションセンター	福祉のお仕事フェア2022

（6）地域公益活動報告

【福寿会コミュニティバスの運行】と【地域清掃】については活動の機会を図るため、法人とし協議を重ねたが、結果として年間を通じて活動を見合わせる事となった。

新年度については、全体の実施ではなく部署ごとでの実施はできないかという視点も取り入れ、活動が滞ることの無いように地域に向けての活動を模索していきたい。